

平成29年度 グローバル人材育成特別コース カリキュラム表(H28年度入学者用)

科目区分	授業科目	必修・選択	履修年次	単位	修了要件	区分	学習目標	授業の概要	担当教員	開講学期				対象者	備考	
										H29年度						
										1学期	2学期	3学期	4学期			
英語力養成プログラム (SPAcE)	英語コミュニケーション1-1 (スピーキング&リスニング)	必修	1~	0.5	6	外国語科目 (英語コミュニケーション1~6)	幅広い内容の英語を聞き、要約することができる。さらに、専門分野に関連する内容について、効果的に議論することができる。質問に対して適切に回答することができる。	幅広い内容の英語を聞き、要約するリスニング力と、それに対する自分の考えを表現できるスピーキング力を修得する。さらに、専門分野に関して発表し、質問に適切な回答ができる演習も行う。								
	英語コミュニケーション1-2 (スピーキング&リスニング)	必修	1~	0.5			幅広い内容の英語を聞き、要約することができる。さらに、専門分野に関連する内容について、効果的に議論することができる。質問に対して適切に回答することができる。	幅広い内容の英語を聞き、要約するリスニング力と、それに対する自分の考えを表現できるスピーキング力を修得する。さらに、専門分野に関して発表し、質問に適切な回答ができる演習も行う。							月3・4	月3・4
	英語コミュニケーション2-1 (リーディング)	必修	1~	0.5			幅広い分野の英文が読める。さらに、学術的な語彙や語法を習得し、専門分野に関連する内容のテキストが読むことができる。	様々な分野のエッセイや時事問題、さらに学術的な内容を扱う英文を用いてリーディング演習を行う。英書をたくさん読む「多読」も実践していく。							月3・4	
	英語コミュニケーション2-2 (リーディング)	必修	1~	0.5			幅広い分野の英文が読める。さらに、学術的な語彙や語法を習得し、専門分野に関連する内容のテキストが読むことができる。	様々な分野のエッセイや時事問題、さらに学術的な内容を扱う英文を用いてリーディング演習を行う。英書をたくさん読む「多読」も実践していく。								月3・4
	英語コミュニケーション3-1 (ライティング)	必修	1~	0.5			幅広い話題に関する英文を様々なパラグラフの形式を考慮して書くことができる。明確で論理的に構成された英文レポートを書くことができる。	比較、対照、議論、物語などの様々な形式を用いて、構成の整った英文を書く演習を行う。明確で論理的な構成を用いて英文レポートを書く演習を行う。								木1・2
	英語コミュニケーション3-2 (ライティング)	必修	1~	0.5			幅広い話題に関する英文を様々なスタイルを用いて書くことができる。序論・本論・結論の3部構成による英文レポートを書くことができる。	比較、対照、議論、物語などの様々な形式を用いて、構成の整った英文を書く演習を行う。明確で論理的な構成を用いて英文レポートを書く演習を行う。								木1・2
	英語コミュニケーション4-1 (アカデミックトピック&タスク)	必修	2~	0.5			英語の4技能をバランスよく駆使して担当教員が与えた課題に取り組むことができる。ディスカッションやプレゼンテーション、およびディベートなどを通して発信型の英語力を実践することができる。	英語の4技能を駆使して、与えられた課題に取り組む。ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを行い、情報収集力、批判的思考力、協調性、創造性などの能力を伸ばしていく。								
	英語コミュニケーション4-2 (アカデミックトピック&タスク)	必修	2~	0.5			英語の5技能をバランスよく駆使して担当教員が与えた課題に取り組むことができる。ディスカッションやプレゼンテーション、およびディベートなどを通して発信型の英語力を実践することができる。	英語の5技能を駆使して、与えられた課題に取り組む。ディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを行い、情報収集力、批判的思考力、協調性、創造性などの能力を伸ばしていく。								
	英語コミュニケーション5-1 (スピーキング&リスニング)	必修	2~	0.5			より専門分野に近いアカデミックな内容の英文の聞き取り、論点を整理してペアやグループで議論することができる。最終的に自らが見つけたテーマについて口頭発表することができる。	アカデミックなテーマに関する英語をメモをとりながら聞き、論点を整理し、ペアまたはグループでディスカッションを行う。また自らが探究したテーマを最終的に口頭発表する。								
	英語コミュニケーション5-2 (スピーキング&リスニング)	必修	2~	0.5			より専門分野に近いアカデミックな内容の英文の聞き取り、論点を整理してペアやグループで議論することができる。最終的に自らが見つけたテーマについて口頭発表することができる。	アカデミックなテーマに関する英語をメモをとりながら聞き、論点を整理し、ペアまたはグループでディスカッションを行う。また自らが探究したテーマを最終的に口頭発表する。								
英語コミュニケーション6-1 (リーディング&ライティング)	必修	2~	0.5	より専門分野に近いアカデミックな英文を理解することができる。論点を整理してペアやグループで議論する。最終的に、自らが見つけたテーマについて論文を書くことができる。	アカデミックなテーマに関する英文をメモを取りながら読み、論点を整理し、ペアまたはグループで議論したり、情報を収集してアカデミックペーパーを執筆する。											
英語コミュニケーション6-2 (リーディング&ライティング)	必修	2~	0.5	より専門分野に近いアカデミックな英文を理解することができる。論点を整理してペアやグループで議論する。最終的に、自らが見つけたテーマについて論文を書くことができる。	アカデミックなテーマに関する英文をメモを取りながら読み、論点を整理し、ペアまたはグループで議論したり、情報を収集してアカデミックペーパーを執筆する。											
Independent Study Class	必修	1~	1	1*		外国語科目 (上級英語)	自主的な学習態度を育成するために、自分自身の思考や行動を認識・把握する認知力を養い、批判力や分析力等の自律的な学習能力を身につける。	自らの学習領域の弱点を把握し補強するための学習目標を設定する。様々なメディアや教材の中から各自の目標にあった教材や方法を選んで実践し英語力を伸ばしていく。	マーリー、ウィックストラム	月7・8	月7・8			国際バカロレア入試による10月入学者は、Independent Study Class及びAcademic Class1の履修を免除する。		
Academic Class 1	必修	1~	1	2*			学術的な文献の読解、講義の理解、エッセイの書き方、および議論の方法などを学ぶ。	スキル別学習を行い、講義形式の授業で求められる基礎的なアカデミックスキルや方法を習得する。授業では、学術的な文献を読んだり、講義を聞いたり、エッセイを書いたりし、さらに口頭発表も行う。	ブリチャード、ファースト五十嵐	月5・6	木7・8 (補講)		コース生のみ			
Academic Class 2	必修	1~	1	2			演習形式の授業を通して、批判的な議論展開の方法を学び、口頭発表およびリサーチペーパーの執筆を行う。	AC1の発展授業として提供され、演習形式の授業で必要なアカデミックスキルを習得する。自分の関心や専門に近いトピックについてリサーチし、グループおよび全体で発表する。また、リサーチペーパーとしてまとめるために、文献の引用の仕方や言い換えなど、論文執筆の作法も学ぶ。	カウイ、ナカムラ、フジシマ、メイキ	月5・6	木1・2					
TOEFL Preparation Class 1	選択 必修	1~	0.5 又は 1	1 又は 0		外国語科目 (上級英語)	スキル別演習問題に取り組むことにより、個人が目標とするTOEFL iBTスコアを取得する。	TOEFL iBT試験に合わせたスキル演習を行う。	鶴持、大年、五十嵐、栗原	月7・金7	月7・木7 火7・金7	月7・木7 火7・金7	月7・木7 火7・金7		繰り返し履修可	
IELTS Preparation Class 1						スキル別演習問題に取り組むことにより、個人が目標とするIELTSスコアを取得する。	IELTS試験に合わせたスキル演習を行う。	寺西	月7 火7	月7・8 火5・6 金5・6	木5・6	木5・6				
TOEFL Preparation Class 2						特定のスキルの演習問題に取り組むことにより、個人が目標とするTOEFL iBTスコアを取得する。	TOEFL iBT試験に合わせた特定のスキル演習を行う。									
IELTS Preparation Class 2							個人が目標とするIELTSスコアを取得する。	IELTS試験に合わせた受験対策の演習を行う。							コース生優先	H28年度開講せず 繰り返し履修可
Intercultural Relations and Communication		2~	1	2 又は 3			多様な視点から異文化を理解することができる。さらに、グループワークなどを通して議論したり自分の意見を論理的に発表したりすることができる。	異文化理解および異文化コミュニケーションに関するテキストを利用し、留学時に近い授業を行う。	フジシマ、メイキ、マーリー、ウィックストラム	火1・2 金3・4	火1・2 金3・4	火5・6 (補講)	火5・6 (補講)	コース生のみ	繰り返し履修可 週1回で履修する	
初修外国語プログラム	初級 I-1, ~2 (独・仏・中・韓) 初級 II-1, ~2 (独・仏・中・韓) ベシック (伊・西・露)	選択	1~	1		外国語科目	各言語の基礎文法を着実に習得し、簡単な文章を使いこなせるよう、学習を進める。	初級およびベシックについては、基本的な文法を理解し、平易な文章を構成する。基本的な発音が出来ると、基本動詞を的確に活用させることができる。また、各言語圏の文化の特質について知る。		○	○	○	○		修了要件単位数には含まれませんが、本コースでは、初修外国語の履修を推奨しています。 注) 語種により開講時期が異なるので、シラバスを確認すること	
	中級 (独・仏・中・韓) ステップアップ (伊・西・露)	選択	2~	1			各言語の「定着」と「ブラッシュアップ」を図る。1年次に学んだ「文法知識を再チェック」しながら、徐々に難易度を上げ、「読解力」を身につける。	中級およびステップアップについては、基礎的な知識をもとに会話および読解力のブラッシュアップとステップ・アップを図る。各言語圏の異文化理解を深める。		○	○	○	○			
	グローバル海外短期実習	選択 必修	1~	1	1	実践知	外国で日常生活を送ることができるレベルの語学力を身につける。また、異文化を実体験することにより、異文化への理解を深める。	初年次の夏季休暇または春季休暇中に、海外で1~5週間の語学研修を行う。	加藤、福森、陳	集中				コース生のみ	希望者は事前に相談すること	
サマー・スプリングスクール	グローバル国内短期実習		3~	1			L-caféを拠点としてインターンシップを行う(但し、留学帰国後の学生のみ対象。最大3人。選考試験あり。)		藤本	—	—	—	—			

平成29年度 グローバル人材育成特別コース カリキュラム表(H28年度入学者用)

科目区分	授業科目	必修・選択	履修年次	単位	修了要件	区分	学習目標	授業の概要	担当教員	開講学期				対象者	備考
										H29年度					
										1学期	2学期	3学期	4学期		
グローバル・コア科目	異文化理解1	選択必修	1~	1	1	知的理解 現代と社会 人文・社会科学系科目 又は 実践知・感性 芸術知	自分の価値観に基づき外国語で論理的にコミュニケーションをとれる能力に加え、自国の文化や歴史に関する正しい知識を身につける。また、他国の異文化を理解する寛容な精神を育成する。さらに、受講者同士の議論やプレゼンテーション等を通して多様な見方や考え、価値観に触れ、意思決定と合意形成の力を身につける。	国際的視野および洞察力を涵養するために、海外の国や地域における歴史・社会・文化・宗教等について講義を行う。	金	火1・2				コース生のみ	平成29年度開講せず
	異文化理解2		2~	1											
	異文化理解3		1~	1											
	日本文化理解1	選択必修	2~	1	1	知的理解 現代と社会 人文・社会科学系科目 又は 実践知・感性 芸術知	グローバルな視点から日本の伝統や文化の価値を学び、日本文化への理解と関心を高めるとともに、日本文化を世界に発信できる能力を身につける。	グローバルな視野を獲得し、異文化を理解するためには、まず自国の文化への理解が必要である。しかし、現在の多くの日本人にとって、自国の伝統文化がすでに異文化となっているものも否めない。また他方、留学で外国に滞在するときには、さまざまな場面で日本人としての教養、知識が求められる。この授業では日本の伝統芸能の一端を知ることにより日本文化への理解を深め、グローバル人材の基盤形成を目指す。	金関		木5・6			履修者数30名まで	
	日本文化理解2		1~	1											
	日本文化理解3		1~	1											
	日本文化理解4		1~	1											
	コミュニケーション開発1	選択必修	1~	1	1	知的理解 現代と生命 生命科学系科目	論理的思考力やコミュニケーション能力を培う。現代的課題に対して、様々な観点から考察する能力を身につける。さらに、グループ内の意思決定と合意形成を行う能力を身につける。	生命や倫理などに関連するトピックで、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う。情報の収集や賛否意見の聴取により、多様な考え方や価値観に触れ、現代的課題を様々な観点から考察し、発表する演習を行う。	ブリチャード ルシンスキー	月7・8	月7・8	月7・8	月7・8	全学部対象(ただし、第2~4学期はコース生のみ)	
	コミュニケーション開発2		2~	1											
	瀬戸内の自然環境・地域の産業1	選択必修	2~	1	1	知的理解 現代と自然 自然科学系科目	グローバル社会に適應できる素養に加え、(日本の自然環境と地元産業への理解と関心を高め、グローバルかつローカルな視野を身につける。	瀬戸内の自然や岡山地域の環境問題への取り組みについて学習する。アクティブラーニングを中心に、地域の発展と歪みを実体験し、医学的、技術的解決策や、制度的、社会的解決策などを検討する中で地域社会への理解を深める。	田口	集中			キャンパス アジア学生 との合同授業	7月1日(土)~2日(日)の 2日間	
	瀬戸内の自然環境・地域の産業2		1~	1											
	瀬戸内の自然環境・地域の産業3		1~	1											
	瀬戸内の自然環境・地域の産業4		1~	1											
	グローバルスタディズ1	必修	2~	1	1	専門教育科目 又は 知的理解	英語で行われる講義を理解し、グローバルに活躍するための質の高い専門知識を習得する。	文系、理系及び医歯薬系の各分野において、英語による専門的講義(概論)を開講する。	文系:○ 理系:夏季集中 医歯薬系:○	—	—			コース生 優先	文系:1学期水曜7・8限 医歯薬系:1学期火曜6・7限 学部により、開講時期は異なる。
	グローバルスタディズ2		3~	1											
グローバルスタディズ3	3~		1												
海外留学・インターンシップ	グローバル対応海外留学・インターンシップ(長期)	選択必修	2~	2	1	実践知	グローバルに活躍できる国際人としての視野を広げ、異文化を理解するために必要とされる知識、技能、態度を身につける。英語で行われる専門科目の講義を理解し、研究を行うことができる。これまでに培った能力を活かして、自ら課題を設定し、解決する能力を身につける。	【履修モデル案】 〔渡航前〕学習目的・計画書の提出。 〔渡航中〕毎月成果報告書(A4,1枚以上)提出。 〔渡航後〕成果報告書(5千字以上)を提出。	金、加藤 神原、稲森					長期は6ヶ月以上、短期は2ヶ月以上~6ヶ月未満の滞在期間とする。	
	グローバル対応海外留学・インターンシップ(短期)		1												
	留学セミナー	選択	1~	1	知的理解 現代と社会 人文・社会科学系科目	留学に必要な基本的な知識を獲得し、英語運用力も含む問題解決のスキルを磨く。	留学および海外体験学習に対する意欲と知識を高め、海外で生活し、現地の大学で学習するために必要となる実用的な知識を身につける。また、海外での学生生活で直面するであろう様々な問題について考え、どのように対処していくかを話し合う。	加藤		木5・6	月5・6		コース生のみ		
合計					24※	※国際バカロレア入試による10月入学者は、修了要件単位数を21単位とする。									

※ ・国際バカロレア入試による10月入学者については、Independent study class (ISC)1単位 及び Academic class 1 (AC1) の2単位の履修を免除し、修了要件単位数を21単位とする。
 ・1年次4月の全学統一TOEIC-IPで800点以上を取得した者については、課外活動等の参加を Independent study class (ISC) 1単位及び Academic class 1 (AC1)2単位の履修に変わることができる(希望者は、総合アドバイザーへ要相談)。
 ・TOEICスコア800点以上を取得して10月から履修を開始する者については、Independent study class (ISC)の単位を免除し、修了要件単位数を23単位とし、また、課外活動等の参加を Academic class 1 (AC1)2単位の履修に変わることができる(希望者は、総合アドバイザーへ要相談)。

※※ グローバルスタディズ1
 ・文系・理系・医歯薬系の各系から、それぞれ1学部が、複数学部の学生が履修することを前提としたガイダンス的な授業科目(1単位)を新規に開設し、規程別表に規定する。平成29年度は経済学部、理学部、医学部において開設し、以降、順次他学部においても開設するものとする。
 ・当該授業科目は、英語で実施する。
 ・授業科目の区分は、原則として「専門基礎科目」とする。授業科目名は系ごとに同一とし、各系に属する学部間で協議のうえ決定する。
 ・専門教育科目として開設することが当面困難である場合は、当分の間、EPOK科目をグローバルスタディズ1に充てることも可能とする。この場合、授業科目の区分は、「教養教育科目」となる。
 ・薬学部は、「ライフサイエンス入門」又は「自然科学のフロンティア」からの選択必修とする。

グローバルスタディズ2
 ・各学部は、既存の授業科目の内容を組み替える等により、グローバル人材育成にふさわしい内容の授業科目(1単位)を開設(新規含む。)し、規程別表に規定する。
 ・当該授業科目は、英語で実施する。
 ・授業科目の区分は原則として「専門科目」とし、授業科目名は各学部において決定する。
 ・グローバル人材育成院が、海外から著名講師を招聘するなどして、特定学部個別に授業科目の開設を要請する場合は、当該学部においては「特別開講」で対応するものとする。